

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第14集

（長野県道 1 号線～508 号線）

NO.92 諏訪から小諸までを県道 40 号線一本で

（長野県道 40 号走破）

NO.93 うさぎおいしかのやま

（長野県道 362 号走破）（長野県道 416 号走破）（長野県道 459 号走破）（長野県道 505 号走破）

NO.94 赤石岳公園線（県道253号線）と大鹿歌舞伎

（長野県道 253 号走破）

NO.95 松川インターから小渋湖（ダム湖）を通り大鹿村に

（長野県道 59 号走破）（長野県道 22 号走破）

NO.96 浅間山山麓を走る

（長野県道 80 号走破）（長野県道 130 号走破）（長野県道 131 号走破）（長野県道 134 号走破）

NO.97 松川村と大町市常盤を走る（国営アルプスあずみの公園）

（長野県道 450 号走破）（長野県道 496 号走破）（長野県道 334 号走破）

NO.98 長野停車場線（県道 32 号線）

（長野県道 32 号走破）

清水高原(きよみすこうげん)歳時記(長野県道完走編)

NO 道92

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.8.5

諏訪から小諸までを県道 40 号線一本で

澤田 繁 著

(長野県道 40 号走破)

2021.4.6 諏訪インターから国道 20 号線に出て上諏訪駅方面に向かい、「真澄」の宮坂醸造前の元町交差点(県道 40 号線の起点)を右折した。県道 40 号線(諏訪白樺湖小諸線)は、実延長が 80km 程あり、長野県道として最も長い県道になっている。甲州街道の上諏訪宿から、途中中山道の芦田宿を通り、北国街道の小諸宿に通じているが、関連はなさそうである。諏訪の市街地は、平地が少なく、県道 40 号線もすぐに登りの道になる。標高 800m にある諏訪二葉高校の横を通り、900m の諏訪湖が一望出来る「立石公園」に到着した。



「立石公園」を出発し、しばらく尾根を走り、角間川沿いに変わる。標高が 1260m 程になった所に「蓼の海」に入る道があった。しばらく走り、角間川沿いから外れ、山道を登った所(標高 1600m)から霧ヶ峰高原が始まった。スキー場の横を通り、霧ヶ峰高原ドライブイン霧の駅に到達した。この 1 年後の 2022 年 5 月には、老朽化などで営業停止になった。2024 年 6 月 22 日に来た時には、建物が無くさらちになっていたが、土産物屋さんとかじゃがバター等を売



る店は健在だった。このじゃがバターは、自分でバターを塗るお店で、つつい塗り過ぎてしまう。

この先の標高 1700m の富士見台駐車場では、必ず車を止めて、景色を一望する所だ。この日は 4 月なので「ニッコークスゲ」はまだ早い、2024.6.22 ネットで調べて、最も歩かなくて「ニッコークスゲ」が見える所

を探したが、なんとここだったので、「ニッコーキス
グ」を見に、駐車場に止めて、道路を渡り少し登り
ました、咲いていました。県道 40 号線は、ドライブ
インからは、ビーナスライン(第 2 集/NO・9)の名
称にもなっている。富士見台駐車場から先は、茅野
市に入る。車山高原を通り、白樺湖に向かって下っ
て行く。県道 40 号線は、大門峠の交差点を一旦右折
して、白樺湖の湖面近くまで降り左折して、大門峠
交差点を直進（ビーナスライン）した道と一緒にな
る。大門峠交差点は茅野市・立科町・長和町の分岐



点であり、白樺湖は南半分が茅野市、北半分が立
科町である。立科町にある池の平ファミリーラン
ドと池の平ホテルの横を通り、白樺湖交差点まで
進んだ。県道 40 号線はここから 2 路線になってい
て、佐久方面に行くには、直進するのが早い。直
進して学校などの山荘が多い地域を進みビーナス
ラインとの分岐点である蓼科牧場交差点を左折し
た。左折し 400m 程行くと「女神湖」にいく交差点

があったが、「昔きたな」で通過した。女神湖付近が標高 1580m 程で、この辺から千曲川（標高 530m）ま
で長い緩やかな下りの道になる。第二蓼科牧場横にある「牛乳専科もうもう」で休憩し、ソフトクリームを
食べた。ほんとうはなにか食べたかったのだが、道路沿いにはなかったが、近くに道から少し入ったところ
に「長門牧場レストハウス」があった事が帰ってから分かった。休憩後さらに県道を下り、中山道との交点
である中居交差点を左折し、芦田宿に入った。

芦田宿から国道 142 号線（県道 40 号
線との立体交差）の下をくぐり芦田地
区をしばらく走り、桐原地区に入る。
この地区は、耕作地と集落がある所
で、藤沢地区に入ると、川沿いの谷を
通る道になる。谷は続き、東御市に
入る。谷を抜けたところが千曲川に近い
島川原交差点になる、この交差点を右
折し、千曲川の左岸を上流に向かって
進む、小諸市に入り、「牛にひかれて
善光寺」の布引観音の駐車場に着く、
布引観音は一度来たが、上まで車で登
り下って行った事があるが、下からは



徒歩で 15 分くらい山道を登ると観音堂に着くようだ。大久保橋で千曲川を渡り、河岸段丘を登ると、小諸懐
古園の側に到着する。懐古園で花見をして、再び県道 40 号線に戻り、小諸宿からは北国街道に入り、与良町
で右折して、国道 141 号線（県道 40 号終点）と交わった。この日は小諸インターから帰宅した。

<http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm> 歳時記ホームはこちら

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.8.6

うさぎおいしかのやま

澤田 繁 著

(長野県道 362 号走破) (長野県道 416 号走破) (長野県道 459 号走破) (長野県道 505 号走破)

2024.8.6 豊田飯山インターで降りて、国道 117 号線に出た。すぐに県道 362 号線に入り「高野辰之記念館」に向かう、何回も側を通っていたが、いつか寄ってみたいと思っていたのが、この日になった。記念館の近

くには、うさぎおいしからはじまる「故郷」の作詞者「高野辰之」の生家があり、旧永江村(明治 22 年からは穴田村と合併し永田村に、昭和 31 年には豊井(豊津+上今井)村と合併し豊田村が 2005 年までつづく)は、千曲川から 100m 程登った丘陵地から始まる。生家は、丘陵地にあり、北と西は低い山が迫っている所だった。記念館の 2 階にはかのやまを見える窓があり、かのやま(大持山・熊坂山・大平山)を見て来ました。

「高野辰之」は明治 9 年(1876 年)生まれ、70 歳の昭和 22 年まで、国文学者として、日本歌謡



史・江戸文学史・日本演劇史の著作を始め童謡を 30 編執筆した。明治 42 年に文部省の小学校唱歌教科書編さん委員に委嘱され、作曲者の岡野貞一とコンビで、今も歌い継がれる名唱歌を世に出した。私が小学生頃まで、作詞者や作曲者がふせられていたようで、1960 年にオープンになったようだ。また「高野辰之」は、たのまれるといやと言えないタイプだったので、全国各地の校

歌(小学校時代に 5 軒先の松商学園校歌もあり、遊びに行くと応援の練習で良く聞いて憶えてしまった)を 100 曲以上作詞している。「春が来た」明治 43 年(1910 年)・「紅葉」明治 44 年・「春の小川」明治 45 年・「故郷」大正 3 年(1914 年)・「朧月夜」大正 3 年(1914 年)。記念館では、唱歌「故郷」「朧月夜」誕生 110 周年【記念スタンプラリー】に声をかけられたので、ちょっと考えたがやろうと思いました。その場で

記念クリアファイルとスタンプ台や案内をもらい、記念館内を見学した後、スタンプラリーに出発。

【故郷（ふるさと）】1914年 作詞 高野辰之 作曲 岡野貞一

兎追いし彼の山・小鮒釣りし彼の川・夢は今もめぐりて・忘れがたき故郷
如何にいます父母・恙なしや友垣・雨に風につけても・思いいづる故郷
志を果たして・いつの日にか帰らん・山は青き故郷・水は清き故郷

【朧月夜（おぼろづきよ）】1914年 作詞 高野辰之 作曲 岡野貞一

菜の花 畠に/入り日薄れ・見わたす山の端/霞 ふかし・春風そよふく/空を見れば・夕月 かけりて/に おい 淡し
里わの 火 影も/森の色も・田中の 小 路を/たどる人も・蛙 のなくねも/か ねの音も・さながら 霞 める/朧 月 夜

【紅葉（もみじ）】1911年 作詞 高野辰之 作曲 岡野貞一

秋の夕日に照山もみじ・濃いも薄いも数ある中に・松をいろどる 楓や 蔦は・山のふもとの 裾 模 様
溪の流れに散り浮くもみじ・波にゆられてはなれて寄って・赤や黄色の色さまざまに・水の上にも織る 錦

【春が来た】1910年 作詞 高野辰之 作曲 岡野貞一

春が来た春が来たどこにきた・山にきた里にきた野にもきた
花がさく花が咲くどこにさく・山にさく里にさく野にもさく
鳥がなく鳥がなくどこでなく・山でなく里でなく野でもなく

【春の小川】1912年 作詞 高野辰之 作曲 岡野貞一

春の小川はさらさら行くよ・岸のすみれやれんげの花に・
すがたやさしく色うつくしく・咲けよ咲けよとささやきながら
春の小川はさらさら行くよ・えびやめだかや小ぶなのむれに・
今日も一日ひなたでおよぎ・遊べ遊べとささやきながら

【松商学園校歌】昭和4年（1929年） 作詞 高野辰之 作曲 信時潔

雄々しき連峰 四表に聳え・ 瑠璃なす清流 平野に通ふ
天龍傘下の 形勝占めて ・ 健児我等は 清水が丘に



スタンプラリーは6か所でした。まずは記念館周辺に4か所、生家と寺2か所を回りました。「朧月夜」にあるくかねのね>のモデルになった、よく遊んだ寺（真宝寺）があった。とりあえず4か所を回ると、道の駅ふるさと豊田での食事が¥500で食べられました。飯山のお寺でスタンプを押して、近くの酒蔵で「水尾」の生酒を買い、最後のスタンプの野沢温泉に向かいました。



2022.3.29 中野インターで降り、県道29号線の中野市街方面に少し進んで、安源寺交差点（県道505号線起点）を左折し、志賀中野有料道路の下をくぐり千曲川にかかる上今井橋を渡った。国道117号線との交点上今井の交差点を直進し、谷間を150mの高低差を登って行くと耕作地が広がる、ここからが旧三水村（赤塩・倉井・東柏原・芋川・普光寺・川谷の一部）になる。上赤塩の中心を通り倉井地区に進むと、県道362号線の交点（県道505号線終点）に到達した。県道505号線（三水中野線）走破。倉井地区から362号線（牟礼永江線）に入り、牟礼にある県道362号線の起点を目指して、往復する。深沢交差点で国道18号線と重複して、県道60号線との交点である牟礼駅入口交差点から普光寺地区に入り、



200m先の三差路を左折して、県道 362 号線を起点に向かう、鳥居川を渡ったところが牟礼村になり、牟礼宿東の^{ますがた}杵形跡の三差路が 366 号線との交点でもあり起点でもある。366 号線を少し走り、牟礼駅入口交差点に戻り、深沢交差点を通り。倉井地区の県道 505 号線との交点まで戻って来た。倉井地区から赤塩地区に入り下赤塩の中心を通り、東柏原地区の東端を通り、旧豊田村永江地区に入り、国道 117 号線に到達した（県道 362 号線走破）。この日は豊田飯山インターから帰宅した。

2022.8.23 中野インターで降り、渋温泉方面をめぐり、飯山方面に向かい、中野市壁田地区にある県道 500 号（豊津から壁田）の橋（笠倉壁田橋）の工事進行状況を見に行き、対岸にある替佐駅まで、南下し県道 505 号と国道 117 号線を使い替佐駅（県道 416 号終点）に到着した。替佐駅（標高 350m）を出発し、替佐交差点で国道 117 号と重複して 1km 程行くと、わかりづらい三差路を左折した。＜小鮒つりしかの川＞の斑^{はん}川が流れる谷間の集落に沿ってゆっくり登って行く。標高 400m 近くまで登ると耕作地が広がり、すぐ永江地区に入り、県道 362 号線と合流（県道 416 号線/南永江替佐停車場線起点）した（県道 416 号走破）。この日は豊田飯山インターから帰宅した。

2022.11.29 豊田飯山インターで降り、道の駅ふるさと豊田で休憩し、国道 117 号線の中野方面にゆっくり下り、上今井交差点から県道 505 号線を飯綱町方面に進んだ。最初の目的が県道 459 号線（東柏原赤塩線）の走破なので、上赤塩交差点（県道 459 号線終点）を右折した。集落のない道を県道 362 号線との交点まで進み、赤東（？）集落に入る。さらに進み次の集落は、東柏原地区だった。東柏原集会所（標高 520m）まで進んで来たが、ここまで 2 車線道路であったが、この交差点からはどこに行くにしても狭くなっている。左折が県道 459 号線であった。ここから 1km 程は、山が迫って来て、ところどころ耕作地がある道だった。そこから先は完全山道に入った。戸谷峰（756m）の周りを巡る高原道路に近かったが、ところどころ景色が見渡せる道路だった。下って行って標高 600m まで下った所が県道 60 号線との交点（県道 459 号線起点）であった（県道 459 号線走破）。この日は、牟礼方面に向かい豊野周辺をめぐり、浅川ループ橋を通り、飯綱高原経由で信濃町インターから帰宅した。

2024.8.6 スタンプラリーのつづき、国道 117 号線を北上し大関橋西交差点を右折し、関沢交差点を左折して県道 38 号線に入り野沢温泉につきました。最後の一つは、高野辰之記念「おぼろ月夜の館」斑山文庫で「大湯通り」の側ではないかと目途をつけてルートを考えていたところが、工事中で通行できず、狭い道をぐるぐる回って、ようやく到着しました。高野辰之は昭和 9 年に麻釜に別荘「対雲山荘」をたて、戦時中の昭和 18 年に野沢温泉のこの別荘に疎開して、昭和 22 年に、ここで 70 歳でなくなった。記念館には、多くの遺品があった。受付でスタンプラリーの記念品の「土びな・よるナカノちゃん」と「土びな・信州なかのちゃん」をもらいました。帰りは大湯まで行き U ターンして、フキヤで「できたてほやほやの温泉饅頭」を買い、豊田飯山インターまで戻り帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.8.13
赤石岳公園線(県道253号線)と大鹿歌舞伎
(長野県道 253 号線走破)

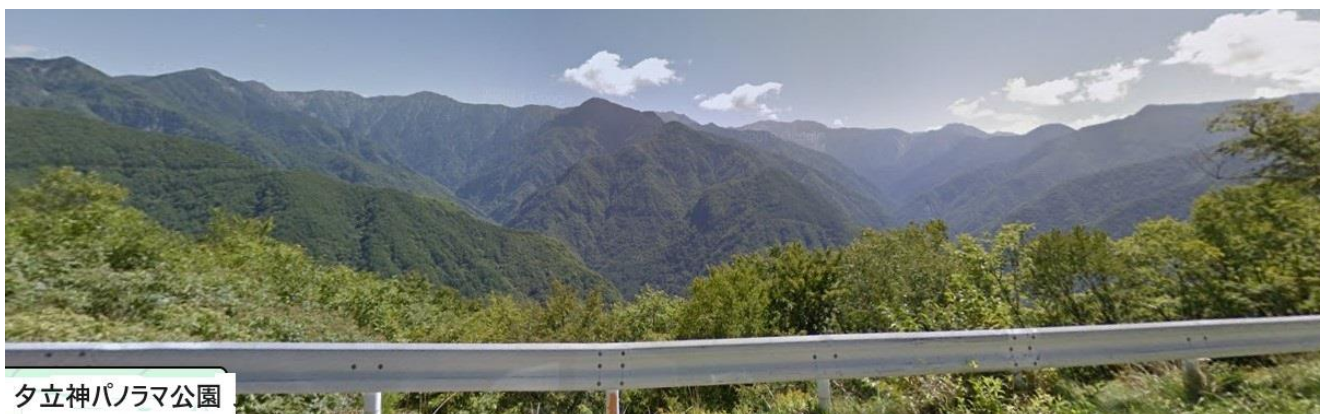
澤田 繁 著

2022.8.16 松川インターから大鹿村に通ずる県道 59 号線を通り、大鹿村に行きました。大鹿村は何度か来ていますが、県道 253 号線(赤石岳公園線)がまだ走っていなかったなので、その周辺を走りました。

県道 59 号線から国道 152 号線に入り南下した、「道の駅歌舞伎の里大鹿」で休憩し、さらに南下した。「大鹿村中央構造線博物館」の手前にある小渋川を渡る前の三差路が県道 253 号線の起点となっている。小渋川左岸を登っていくと、上蔵集落につく、大河原城跡への進路案内があったり、野々宮神社(大鹿村に現在歌舞伎が出来る舞台が 4 つあり、そのうちの 1 つである)があったりした。集落を抜け山道に入りました。途中「小渋温泉・赤石荘」に入る案内があり、さらに進んでいくと、川の上の方の道になっていき、三差路まで来た。上は「御所平 3.3km」。下は「小渋登山ルート」になっていた。県道 253 号線は下のルートであり、下っていく感じの道であった、結構山肌にへばりついた狭い箇所が多い道だった。小渋川が見えてきて、小渋川に流れる沢を渡った所が、県道 253 号線の終点となった(県道 253 号線走破)。またここが赤石岳への登山口の湯折となる。同じ道を引き返し、小渋川を渡り「大鹿村中央構造線博物館に行きました。建物の前には、石とその説明が多くあり、その中に中央構造線が引かれていました。村営の博物館は 1993 年にオープンした博物館で、地震と地殻変動、地盤・土砂災害と地形の成り方などを知ることが出来る。大鹿村の南北に走る国道 152 号線は、まさに中央構造線に沿っており、糸魚川の海から南 10km 程にある、フォッサマグナパークにある露頭を皮切りに、旧長谷村にも露頭があった。大鹿村の露頭は、北側に旧長谷村(現伊那市)の境の分抗峠の南 4km にある「北川露頭」は以前に見に行った事があり、南側に旧上村(現飯田市)の境の地蔵峠から北に 1.5 km にある「安康露頭」があり、まだ行った事がない。2024.10.31 までは工事中中断中につき、車で行く事が出来るそうです(旧上村には行けない)。



赤石岳をまじかで見るつもりでしたが、谷合の県道 253 号線では、赤石岳は見る事が出来なかった。ナビに尾根沿いに道を発見したので、登り口は複数あるようだが、^{おおかわら}大磧神社(標高 760m)の横を通る入口に向かう。カーブの多い狭い山道を一気に登って行き、標高 1200m まで登ると山腹の緩やかな登りの道に変わった。標高が 1400m まで登り、峰が突き出た所に到達した。案内に「夕立神パノラマ公園」⇒0.1 km があったが、すぐ先に車を止めて景色を眺めた。赤石岳まではまだ遠いし、どれかわからない、少し行ってあきらめて戻りました。



夕立神パノラマ公園

ここから赤石岳に行くには、この道をさらに車で登り、鳥倉山登山口の手前にある第二駐車場に車を止めて、鳥倉山登山口まで歩くか、バスを待つかして鳥倉山登山口に行く。バスは、松川インターから出ており、12時発（大島駅 12:10）である。早いバスは、大島駅前 6時45分発からである。主なバス停は道の駅大鹿（7:28・12:53）と第二駐車場（8:13・13:38）と終着鳥倉登山口（8:30・13:55）で夏期間運行される。**鳥倉登山口⇒(1:10)・豊口山間のコル**《注*鳥倉山登山口から豊口山間のコルまで所要時間 1時間 10分かかる意味》⇒(1:20)・塩川ルート合流点⇒(0:35)・三伏峠⇒(0:40)・鳥帽子岳⇒(1:25)・小河内岳⇒(1:20)・大日影山分岐⇒(0:55)・板屋岳⇒(1:20)・高山裏避難小屋⇒(2:40)・前岳⇒(0:55)・荒川小屋⇒(0:40)・大聖寺平⇒(1:05)・小赤石岳⇒(0:20)・赤石小屋分岐⇒(0:20)・赤石岳まで14時間25分の長い道のりになっている。

県道253号線を利用して湯折まで行き、そこからの工程は、**湯折⇒(0:30)・七釜橋⇒(1:15)・高山ノ滝⇒(1:20)・広河原小屋⇒(2:40)・舟窪⇒(1:00)・大聖寺平⇒(1:05)・小赤石岳⇒(0:20)・赤石小屋分岐⇒(0:20)・赤石岳**まで8時間30分だが、難所のコースのようだ。

静岡県からのルートの登山口は**樫島**ですが、樫島まで自家用車で行けない。手前の**畑薙第一ダム**までは自家用車でいけるので、そこから特種フォレストの送迎バス（特種フォレストが運営する山小屋に宿泊が必要）に乗る。新東名高速の島田金谷ICから大井川沿いを畑薙第一ダムまでは約7時間で行く。送迎バスの時刻は、畑薙発7:30・14:10・15:00で所要時間は1時間10分となっている。**樫島⇒(2:00)・樫段⇒(3:00)・赤石小屋⇒(0:45)・富士見平⇒(1:00)・北沢源頭⇒(1:00)・赤石小屋分岐⇒(0:20)・赤石岳**まで6時間5分となっている。



大鹿村は、南側に**大河原**地区と北側に**鹿塩**地区の二つ地区があり、林業も続けている村であり、間伐され整備している山林が多く見られた。大鹿村に行くには、リニア中央新幹線は通るものの地下トンネル（黒）

では・・・、車道として、北・西・南の3か所のみ。北からは、国道152号（上田市～浜松市）の高遠から旧長谷村を通り、分杭峠（大鹿村境）を越えて、大鹿村を南北に走り、地蔵峠（大鹿村境）を越えて旧上村に抜ける。2020年の豪雨災害のため、南（旧上村）から大鹿村には、いまだに行けないまま、まだ数年はかかるそうだ。北（旧長谷村）からは、2024年10月31日までは、土日祝日は通行できるが、平日の8時～12時、13時～17時は全面通行止めになっている。従って、現在唯一大鹿村に時間を気にしないで行けるのは、西からの県道59号線である。

2022.8.16 夕立神パノラマ公園から戻り、大磧神社付近に戻って来ました。大磧神社は、「大鹿歌舞伎」の春公演を行う場所で、ここから秋公演を行う、市場神社に向かった。

「大鹿歌舞伎」文書上の記録として初めて登場するのは、明和4年（1767年）、大河原村名主前島家の作方日記帳に、大鹿で地芝居が上演されたという記述である。江戸時代、素人の歌舞伎上演は禁制だったものの、奉納芝居の形で伝承され、庶民の娯楽として300年にわたり上演されてきた。現在では春と秋の1年2回の定期公演が行われる。春の定期公演は5月3日に大河原の大磧神社舞台、秋の定期公演は10月第3日曜日に鹿塩の市場神社舞台が会場として使用される。古くは村内に13の舞台があったとされるが、現在歌舞伎に使用できる舞台は4か所である。大磧神社

と市場神社のほか、葦原神社（鹿塩梨原）の舞台と野々宮神社（大河原上蔵）の舞台がある。葦原神社の舞台は御柱祭が行われる寅申年にのみ歌舞伎が上演される。野々宮神社の舞台はほとんど使用されていない。

市場神社は前に来た事があった、その時舞台を見た。今回はすぐ横の「塩の里直売所」で休憩した。以前に、美味しい豆腐が「豆腐工房塩の里美濃屋豆腐店」で販売されていて、店内で豆腐を食べました。この日は、店内にはよらずに、分杭峠を越え高遠から伊那に行き帰りました。

【付録】大鹿村の山塩

大鹿村の山塩の歴史は古く、記録によれば800年代まで遡ります。この地はかつて上下諏訪社の管理下にあり、その豊富な塩分により良馬が育てられていました。江戸時代には「塩壺」と呼ばれる方法で塩の製造が行われ、塩は庶民の生活に欠かせない存在となりました。

海がない、長野県大鹿村の山から採れる天然の塩を「山塩」と呼んでいます。その山塩の元は、鹿塩温泉の源泉（塩泉）。朝から夕方までじっくりと煮込むと、塩分だけがのこり、「塩」が精製されます。源泉から精製される量は「僅か3%程度（1Lから30g）」とかなり少なく、地道な職人作業なのです。その山塩は大量生産できないこと、そして歴史を踏まえて「幻の塩」とも呼ばれています。

山塩の特徴

山塩は、口の中で苦味やべったりとした印象を与える、マグネシウム（にがり成分）成分が、海水から造るお塩と比較すると極めて少なく、とてもさらりとしたお塩です。角の無い柔らかな塩加減で、塩からさの中にも甘味を感じるととても特徴的な味わいです。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.8.20

松川インターから小渋湖（ダム湖）を通り大鹿村に

澤田 繁 著

(長野県道 59 号走破) (長野県道 22 号走破)

2020. 12. 8 松川インター（標高 680m）から大鹿村を目指しました。県道 59 号線（松川インター線）は、いくつかの河岸段丘をこえながら下り標高 480m の天竜川に達する。インターを降りた付近は、りんご畑などフルーツ栽培が盛んな所で、フルーツ店も通り沿いに多くある。松川町役場付近から松川町の市街地に入り、河岸段丘の坂の中腹に出来た伊那大島駅の横を通り、国道 153 号線との交点である上新井の信号を直進した。県道 59 号線は、小渋川沿いに入る前、天竜川に中央アルプスからの片桐松川と南アルプスからの小渋川が合流している場所で、道路も合流地点を避けて通っていた。渡場交差点を右折しすぐに小渋川沿いになった。上流に小渋ダムが出来たので、ダムまでは、くねくねした登りの道だった気がする。ダムを越えて国道 152 号線に合流した、合流地点の標高は約 680m で、天竜川から 200m 程登ったことになる、152 号線を南下し「道の駅歌舞伎の里大鹿」で休憩した（県道 59 号線走破）。



小渋ダム展望台には、「西下トンネル」手前に小渋ダム（または国土交通省）の矢印があり、右折する。小渋ダムは1969年（昭和46年）に完成したダムで、小渋川から天竜川に大量の土砂が流入して、泰阜ダム（天竜川）の急激な堆砂の原因になっていた。このため伊那盆地下流の水害が多く、特に大きかった「三六災害＝1961年（昭和36年）」をきっかけに建設された。現在は小渋ダムに流入する土砂問題に、対策している。

「西下トンネル」を抜けると、小渋湖が見え、橋が見える。この橋からは大鹿村になるが、手前に今度紹介する「県道 210 号線＝西伊那線」の入口がある。西伊那線は、山間を伊那美^{みすず}篤までの路線で、西（中川村大字四徳字西）は、ここの地名である。

2020. 12. 8 「道の駅歌舞伎の里大鹿」を出て、国道 152 号線に戻り、県道 59 号線の交点に着いた。ここから県道 22 号線（松川大鹿線）にも入る。しばらく県道



59号と重複して走り、小渋湖の東端近くに、県道22号線と59号線の分岐点があり、分岐してすぐ橋があり、その前に、注意がきがいいろいろ書いてありました。この先4kmが難所のように、慎重に進む事にした。橋を渡ってしばらくダム湖の横を通り、次に沢沿いを進んだ。道は狭く待避所の表示が目立つ道になっている、いよいよ山登り（生田地区に入る）が始まり、つづらおり（前頁写真）の道を一気に300m程あがった。上がった所の標高は940m程であり、ここの登り区間、現在2023年6月の豪雨災害のため、当面の間終日全面通行止めになっています。ここからは緩やかに下っていった。県道22号線は、この後は生田地区を走り、天竜川と平行して走る県道18号線に達する。この山間の地区（写真）は、田んぼ・畑・人家などが点在する。県道22号線を走っている間は、道筋はわかりやすいが、工事中の箇所があり、周り道をしたとき、**立体迷路**のようだった。どこを通ったかわからないが、途中「松川東小学校」の廃校の横を通って、県道22号に戻った。県道18号線に出た後、飯田方面にいき、三遠南信自動車道から帰宅した。



【付録】2024. 8. 20 アイシティの北の敷地にワールド・ドリームサーカスを見に行きました。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.8.25

浅間山麓を走る

澤田 繁 著

(長野県道 80 号走破)(長野県道 130 号走破)(長野県道 131 号走破)(長野県道 134 号走破)

2020.9.29 自宅から高速道路を使い、中部横断道の佐久中佐都インターで降り、岩村田駅前を通り、岩村田交差点で県道 9 号線に入る。県道 9 号線を北上し、国道 18 号線との交点である馬瀬口交差点に到達した。そのまま直進し、県道 134 号線(馬瀬口小諸線)に入りました。すぐに北国街道との交点を横切った。この馬瀬口という集落は、かつては馬宿、牛宿が置かれ、旅の疲れを癒した所であった。集落を過ぎると、浅間山麓の田んぼ地帯がつづく、高速道路の上を通り、昭和 29 年までの村であった北大井村(現小諸市)の八



幡・柏木・加増地区を通り、県道 40 号との交点がある加増 1 丁目にはいり(県道 134 号線走破)、県道 40 号線を通り、国道 141 号線に出た。

国道 141 号線を本町交差点まで行き、小諸宿(写真)を散策し、うなぎの藤舟で美味いうなぎを食べました。食事休憩のあと少し引き返して、小諸駅に行きました。小諸駅から県道 130 号線(菱野筒井線)がスタート、直線で国道 18 号線まで登る、小諸は浅間山の山麓の坂の街である。国道 18 号線と少し重複して、平林交差点を右折して、県道 130 号線単独で、山麓の登りの道になった。高速道路の下を通る前から、昭和 29 年までの村であった大里村(現小諸市)の菱平地区に入りました。旧大里村は



菱平・滝原・諸・西原からなり、県道 130 号線は、終点まで菱平地区を通る。菱平は明治 7 年に菱野村と後平村が合併し、菱平村になった。集落の先に「菱野温泉」があった。旅館が 2 軒あるが姉妹館みたいである。漫画の舞台の



せいで最近人気が出ているようだ、ネットで見ると、＜登山電車で行く、展望露天風呂が自慢の宿＞（宿の中から登山電車で1分30秒のって露天風呂「雲の助」に行く）130号線の終点を探しながら、旅館を素通りし進むと、チェリーパークラインに出た。後で調べたら県道130号の終点は上の旅館（薬師館）までであった（県道130号走破）。

チェリーパークラインに入り、高峰高原まで登ることにした。かつては有料道路であったようだ。登りはきつくカーブも多い道だった。高峰高原に着き、ホテル前の駐車場で休憩、ここからの景色がよく、小諸方面が良く見えた。ホテル内を見学し、駐車場に戻り群馬方面に向ったが、工事中で通行止めだったので、迷った挙句に尾根つたいに湯ノ丸に向かいました。景色はよかったが舗装なしの道路を、久しぶりにわくわくして運転した。湯ノ丸になんとかつき、滋野駅方面に下りました。この日は、滋野駅からは県道81号・82号等を通り三才山トンネルから帰宅しました。



2021. 10. 19 松本インターから小諸インターまで高速で行き、小諸インターから県道79号を少し走り、小諸インター北交差点を右折し、県道80号線（小諸軽井沢線）に入った。上田市古里西交差点から始まる「浅間サンライン」は、浅間山麓広域農道として、昭和48年に着工され、平成5年（1993年）に全区間完成した。県道80号線も「浅間サンライン」

の一部区間であり、まさに浅間山山麓を走る道路だ。県道80号線の小諸市から御代田町までは農耕地を走り、追分（浅間サンライン入口交差点）が近くなるほど、軽井沢の表示が目立つようになる。この表示、最初は「ここも軽井沢？」と違和感があったが、いろいろ県道を走るうちに、軽井沢町が結構広く、あちこち開発されていることが見えてきた。「浅間サンライン入口交差点」に到達した（県道80号線走破）。この日は軽井沢方面にいき、県道を中心に走り、小諸に戻り、加増東交差点から国道18号線を北上し、警察署前交差点を右折して県道に入った。右折してすぐ左に小諸警察署があり、少し住宅地のつづきはあるが農作地になり、浅間山に向かって緩やかに登っていく道だった。この県道、131号線（峰の茶屋小諸線）であり、どこまで行けるかわからないが進む。高速道路の上を通り、「浅間サンライン（松井隧道）」の上を通り、この少し前あたりから林が多くなってきた。開けた所に小諸市総合運動場（天池グランド）があった。チェリーパークライン入口から来る道を突っ切り進むと田んぼがあり細い山道になった。ナビも県道表示が消えたので少し行き引き返しました。チェリーライン入口の方に行き、この日は、県道80号線に出て、小諸インターで高速にのり東部湯ノ丸インターでおいて、三才山トンネルを通り帰宅した。

2022. 7. 19 山梨方面から小海線沿いをあちこち走り、ついでに県道131号線の残り区間を走るために、県道142号線から小諸駅周辺まで行き、線路の向こうを走る国道141号線に何とか出た。赤坂交差点が県道131号線の起点となっており、そこから市街地を国道18号線との交点である警察署前交差点まで走った。終点は峰の茶屋であるが、地図には路線はない。いろいろ調べたが、浅間山を経由するとあったので、かなり想像して線を引いて見ました。この日は小諸インターから高速に乗って帰宅しました（県道131号走破）。

<http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm> 歳時記ホームはこちら

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.8.27
松川村と大町市常盤を走る(国営アルプスあずみの公園)
(長野県道 450 号走破)(長野県道 496 号走破)(長野県道 334 号走破)

澤田 繁 著

2022. 12. 26 安曇野インターで降り、穂高神社に参拝し、国道 147 号線を北上し、信濃松川駅前交差点から県道 450 号(矢地赤芝線)に入り、西に進む。入って 200m の所に「松川村役場」があり、そこからは、田んぼと家の点在する道になった。ところどころにりんごの栽培が見られた。川西交差点で県道 306 号線と交わり 450 号終点となった(県道 450 号線走破)。

県内には、松川町と松川村の二つが存在していて、松川〇〇と言えば、それぞれ近くを思ってしまう(町村を正確に憶えていないので)。高速道路が発達しない時代には、松本から松川町は遠い所だったが、今は高速道路から離れた松川村の方が遠く感じる。松川村は、長寿の村として近年脚光を浴びた。

県道 306 号線を北上し、国営公園入口交差点を左折し、県道 496 号線(あずみの公園線)に入り、乳川沿いに進むと、すぐに公園が左に現れる。公園横の道を進むと、公園内(三差路)にはいり一応県道 496 号線の終点となる。公園内をすすみ、駐車場に入り休憩した。かなり広いエリアと体験型のように、歩かない私達には、体験型等は無理みたいなので、少し休んで戻りました。季節になると、溪流探索などはテレビニュースで毎年やっています。国営公園入口交差点まで戻って来ました。そのまま直進し、国道 147 号線と交わりました(県道 496 号線走破)。左折し国道 147 号線を大町方面に向かいました。国道 147 号線と J R 大糸線は、平行しており、安曇^{くづかけ}沓掛駅・信濃^{ときわ}常盤駅・南大町駅と過ぎ、ココス大町店で食事をしながら休憩した。この日は、木崎湖まで北上し、東に進み、信州新町の「さざり荘」近



くの国道 19 号線に出て、帰宅した。

2022. 8. 30 安曇野インターで降り、県道 310 号線から国道 147 号線に出て、途中「高橋節郎記念館」に寄り、沓掛南交差点を右折し、県道 334 号線(大平大峰沓掛線)に入りました。ラ・カスターガーデン横を通り、県道 51 号線との交点宮本交差点に、この路線ここから先には行けなかった(県道 344 号線走破)。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.8.27

長野停車場線(県道32号線)

澤田 繁 著

(長野県道32号走破)

長野駅周辺は、私が大学に通っていた頃(1969年~72年)からは、大幅に変わった。1998年の長野オリンピックに合わせて1997年10月に長野新幹線(現北陸新幹線)が開業した。1996年には、仏閣型駅舎から近代的デザインの橋上駅舎に改築された。大学時代の東口改札は、跨線橋(結構長かった?)を渡り、階段を下りてすぐだったが、現在東口は土地区画整理に伴い大いに発展している。

長野駅前からの長野大通りは、1981年の長野電鉄地下化



によって開通した道路で、市街地のメイン道路となった。この通りを走ると、駅前に「銀星」の文字が見え、今でも「パチンコ銀星」は残っているんだ……。大学時代たまに駅前に遊びに来ていた、「銀星」よりは千石界限がほとんどでした。千石劇場は今も健在のようだが、一度も行った事はなかった気がする。

大学時代の下宿先が八幡原(川中島合戦)近くだったので、バスは松代線だった。当時の松代線は県庁東交差点から中央通りの方に行き、中央通りの富士銀行前のバス停を通り、善光寺方面に少し行き、左折して再び県庁方面に戻るコースが長野市街地からのスタートで、長野駅前からのバス停はなかった。松本から鉄道で行った場合には、長野駅前から長野バスターミナル(1967年開設)まで歩き、そこから県庁から来る松代行に乗ったものだが。現在の路線を見たら、駅前からスタートして、旧県道32号線(末広通り・北国街道)を通り、昭和通りを通り、県庁前を左折してターミナル会館(旧長野バスターミナル)を通り、松代までの路線になっていた。県道32号線は、長野大通りの駅前から南に延びる、ターミナル南通りの道路整備が進んだようで、2018年に路線変更があり、長野駅前から中御所北交差点までに変更された。2021.2.23に中御所北交差点から県道32号線(長野停車場線)を長野駅まで走った。中央分離帯がある片側2車線道路であった(県道32号線走破)。

大学時代に松代行きのバスは「川中島自動車」であったが、1983年に倒産、1984年に社名を「川中島バス」にして松本電鉄グループの全面支援に寄る再建が始まった。1985年には正式に松本電鉄グループに入り、1991年には債務を全て完済した。1990年、松本電鉄グループは「アルピコグループ」として、グループアイデンティティの推進に取り組んだ、そのため車両のデザイン変更が行われた。2011年、川中島バスは、諏訪バスとともに松本電気鉄道に吸収合併され、「アルピコ交通」となった。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>